

## 金山町心のサポート事業

### ＝豪雨災害後の健康調査を実施して心のケアの取りくみ＝

(実施期間)	(基金事業メニュー)
平成 24 年度～平成 25 年度	対面型相談事業、人材育成事業、普及啓発事業
(実施経費) 平成 24 年度 650 千円 (650 千円)	(実施主体)
平成 25 年度 702 千円 (702 千円)	福島県金山町

#### 【事業の背景・必要性・目的】

平成 23 年度 7 月の新潟・福島豪雨災害により、只見川沿いの地域は、人的被害はなかったものの、鉄道・道路・住宅・田畑等、甚大な被害を受けた。時間の経過とともに、少しずつ元の生活を取り戻しつつあるが、田畑の状態はほとんど元に戻らず、被害の度合いによって生きがいや経済面から、心の健康への影響が危惧された。そのため、心の健康に関する実態調査を行い、その結果に基づき健康支援の施策を検討することにした。

#### 【地域の特徴・自殺者数の動向】

福島県の西部に位置し、北は越後山脈を挟んで新潟県と隣接し、町の 9 割が山間部である。

人口は 2,348 人 (H24. 4. 1 推計人口) であり、平成 17 年から高齢化率は 50% を超え著しい少子高齢化が進んでいる。

自殺者数の年次推移 平成 15～平成 23 年

年度	H. 15 年	H. 16 年	H. 17 年	H. 18 年	H. 19 年	H. 20 年	H. 21 年	H. 22 年	H. 23 年
自殺者数	0	3	1	1	1	1	1	1	2

<福島県保健福祉部刊行 保健統計の概況より>

世帯状況をみると、65 歳以上の親族がいる世帯は平成 22 年 80% を占め、なかでも高齢者のみの世帯、高齢者単身者世帯が増加している。

#### 【事業目標 事業内容】

##### ① 平成 24 年度

- ・心の健康に関する健康調査 (K6、IES-R、Cage の尺度を活用したスクリーニング調査)
- ・健康調査結果分析後、ハイリスク者の家庭訪問による要フォロー者の把握
- ・心の健康相談 (精神科医師) 年 1 回 2 か所
- ・睡眠に関する健康講座 (精神科医師) 年 1 回 2 か所
- ・リフレッシュ体操 (作業療法士) 年 3 回

##### ② 平成 25 年度

- ・健康調査ハイリスク者で前年度未訪問者、前年度要フォロー者への家庭訪問
- ・リフレッシュ体操の開催 (作業療法士) 年 9 回
- ・家庭訪問ケアにおける健康相談 (主な対象: 閉じこもり高齢者) (作業療法士) 年 9 回
- ・健康講演会「傾聴ボランティア講座」の開催 年 1 回
- ・心のサポート事業説明会 対象者: 地域協力員 年 1 回

### 【事業実施にあたっての運営体制】

- (1) 金山町住民課 ……心のサポート事業連絡会の開催、調査結果の入力・集計・結果分析、各事業案作成、健康調査ハイリスク者家庭訪問案作成及び実施、要フォロー者把握と支援策検討、全体事業評価。
- (2) 会津保健福祉事務所（総務企画課、障がい者支援チーム）  
 ……心のサポート事業連絡会への参加、健康調査票案作成、結果分析と各事業案提案、健康教育等講師紹介、健康調査のハイリスク者家庭訪問支援のための所内保健師の調整と家庭訪問、要フォロー者把握のためのチェックリスト作成と要フォロー者支援策検討、全体事業評価。
- (3) 京大子供の心のケアチーム ……健康調査票作成への助言指導、調査実施上の助言。

### 【事業の工夫点】

- ・地域協力員等により健康調査票の配布と回収を依頼した結果、回収率が高まった。
- ・健康調査（スクリーニング調査）後は、保健師等2人1組となり家庭訪問を行い、統一したチェックリストを使用したため、要フォロー者把握が同じ基準でできた。このため、事後フォロー者支援策の検討もしやすかった。

### 【事業成果、今後の課題、その他特筆すべき点】

- ・健康調査にて、心の健康状況（PTSD、不安障害、うつ、アルコールの問題）についてスクリーニングを行い、対象者998人に対し、回答者850人 回答率95.2%であった。
- ・健康調査ハイリスク者（PTSD、うつ、飲酒で規定値を超えた者）に家庭訪問を行い、要フォロー者の把握を行った。（平成24年度は健康調査ハイリスク者216人中、166人に家庭訪問、実施率76.9%）
- ・リフレッシュ体操に参加できない閉じこもりの方に作業療法士と共に家庭訪問ケアを実施し、ADLや疼痛緩和などの改善につながった。
- ・身近な会場でリフレッシュ体操を体感し、楽しく過ごすことができ、自ら事業へ参加しようという住民が多くなってきた。（健康づくりに関する住民意識の高揚がみられた）
- ・地域見守りの役割を担う地域協力員を育成し、担当地域住民への声掛けや事業への参加を促し、閉じこもり防止活動へとつながった。
- ・被災後2年が経過し、道路や住宅の復旧などが目で見えているため、住民の精神的なショックは和らいできたが、災害によるものとそれ以外の悩みや心配事が混在しているようである。
- ・町と地域包括支援センターで65歳以上の高齢者を対象に認知症についての訪問調査を開始し、住民の実態把握を開始している。（心の健康施策と認知症予防施策の総合的活動の展開）
- ・当事業の結果、被災地域を中心に事業展開していたが、高齢者の孤立化に対する閉じこもり予防、サロン開催などを町内全域に範囲を広げ、心の健康事業展開を検討している。

（問合せ先）： 福島県大沼郡金山町

TEL： 0241-54-5135

E-mail： hoken@town.kaneyama.fukushima.jp